

予算等審査特別委員会 9月24日~25日

予算等審査特別委員会（議長を除く 21 人の議員で構成、委員長佐々木譲議員、副委員長照井文雄議員）は、条例 7 件、予算 8 件、その他 2 件の 17 議案について付託を受けて 2 日間の審議を行いました。

今定例会では、今年度初めての補正予算が示され、今後の施策全般にわたり活発な質疑がなされました。その結果、全 17 議案が原案のとおり可決されました。

職員のメンタルヘルスについて

【質問】 県内の小中高の教職員の精神疾患が 10 年間で 3 倍となっている。市の職員の状況はどうか。

【答弁】 今はメンタル面での休暇を取っている職員はいない。

【質問】 職員の不祥事や不幸にして亡くなった職員がいる。職場でのストレス等、どう捉えているか。

【答弁】 200 人の研修を計画している。心と体のバランスを保ちメンタルヘルスについての研修も行う。

【質問】 福利厚生を大切にしながら職場の環境見直しを図るべきと思うが。

【答弁】 福利厚生を大切に、共同で仕事をやることなどで環境を整えていく。

【質問】 報告・連絡・相談が職員間で大事と思うが。

【答弁】 課題についてお互い議論したり対面対話を重視していく。

遠野物語100周年記念準備事業費について

【質問】 事業費が 320 万にアップしたが事業の内容は。

【答弁】 ホームページを立ち上げる制作委託費が 100 万円、市の封筒に 100 周年を迎える印刷や記念切手も制作したい。新たに「英訳・遠野物語」著者ロナル

ド・モース氏の講演会なども企画している。

【質問】 遠野の名を全国に一時的でなく長く観光に寄与するべく取り組んでほしいが。

【答弁】 100 周年を契機として、新たなまちづくりを展開できるような取り組みにしていきたい。

【質問】 創設者の柳田家の了解はどうか。

【答弁】 遠野物語の著作権を有しているのが、東京在住の柳田家である。説明し、ご理解ご協力を頂かなければならない。柳田家には統括の場で参加していただいている。

AEDの今後の活用等について

【質問】 AED（自動体外式除細動器）の配置はどうか。

【答弁】 先に 7 施設に AED 配備をしようとするものに加えて 10 の小学校に新たに配備しようとするものがある。

【質問】 心肺蘇生法及び AED 活用法についての学校教職員の受講者数は。

【答弁】 平成 19 年度は、小学校はないが、中学校では 25 名で、高校は 0 人である。平成 20 年度は、小学校では上郷小学校の職員 8 名、中学校については 28 名、高校は 0 人である。

職員の職改

平成28年度国民体育大会の開催について

【質問】 平成 28 年度岩手国体の決定を受けて遠野市における競技誘致の進捗状況と具体的な計画はどうなっているか。

【答弁】 会場地の誘致については、市体育協会と連携し、協議をして合意形成を図りながら進める。更に協会と検討会を持ち、アンケートを取り、まずはサッカー競技の会場誘致を考えた。そこで内部でも、教育長をチーフとして検討会を持ち、歴史的背景、功績、実績を考慮、さらに最近の遠野高校の活躍をみてサッカーとした。あくまでも会場地誘致希望で、平成 22 年の決定に向けて県に対して運動していく。施設では芝のコート 7 面が必要で、宿泊者は 1,100 名からの受け皿も必要である。遠野市単独では無理なので、近隣市町との連携協力も必要だ。

各分団に無線機配備を

【質問】 あまりにも教職員の受講者数が低い。早急な対応策を検討すべきでは。

【答弁】 学校現場としてはこれで十分ではなく、関係課と連携を取りながら受講について前向きに取り組んで参りたい。

【質問】 防災訓練が行われたが、いざとなれば電話での通信が利用できない場合がある。その際、消防団として当然無線を最大限に利用することになる。現在、分団指揮本部には無線が搭載されている移動無線を使用することになり、不便をきたすが、早めに分団本部にも無線の設置が出来ないか。

【答弁】 現在搭載も含め 70 台の無線がある。普段はそれで十分だが、全市に被害が及ぶ場合は、無線統制も必要である。車載の移動無線を使用してほしい。

【質問】 災害がいつ来ても不思議ではないと言われている。一台 30 万円の携帯無線を各分団に整備すべきであると思うが。

【答弁】 無線は有効な手段であり情報通信計画ではアマチュア無線局に協力を求める。